子爵渡邊國武著

哲學神髓一家言

一名 佛教玄義

東京 榛原製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1087

念を喚起せんとする在るのである其を
で有るのらして本講述を一面のらして見
ると純粋なる哲学系統とるを相違をもん
ど他の一面のら見りを雄偉荘厳なる一の
宗教で有る
夫の獨逸のヘーゲルの等く同一やうな考
と起して其所謂三断論法的辯證法を以て
東西古今の哲学宗教と一大系統の中る統
一せんと試みて結局終に失敗る終りたる
のを決して各哲学各宗教の間る於て互相
の密接聯絡をそれ為めでもなく又各自の
位置方面の定りて居らぬを為めでもなく
して元来所謂三断論法なるものを元来不備不
完全なるもので有るのと正断、反断、合断と
言つる一定不変の順序を拘泥して之を以
て活動変転極りなき人類思想の進化を歴
史発展の進行とを拘束せんと欲するる等
強所會の過失の為めで有ると言ひねをな
らむ其等の訳を本講述るやうて後追々詳
しく説明する積りて有るを序で有るのら

東京原稿用紙

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1087

只一言して置く

又本講述は佛教玄義と言ふ一名を有するものを本講述に於る研究撿覈の結果が今から二千有餘年前に印度の釈迦牟尼佛陀が首唱せらるる所の佛教中の因縁生の哲理と自ら妙合一致する所が有るうらで有る点のものなるから其講述の方法も其説明の順序も是まで在る所の佛教とは全く異りて居るうらはずと本講述の本名とする哲学神髄一家言と題して一家創設の哲学新系統で有るとして其後の當否を講述者自らの任じて決して其辯護の為めに釈迦牟尼佛陀の聖権なりとぞ假らぬと言ふことを明らかにして而して後其結果のみ見るべき本講述を従前印度的詩的因明的なる佛教の中に深く隠して居らるる玄妙の義趣と世界的論理的経験的に研究撿覈して其を発揮したのが有ると言ふ意味で別に佛教玄義と言ふ一名を付して置くのが有るのみならず本講述を以て一家創設の哲学新系

東京榛原製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1087

統で有るとなるも或は又佛教の玄義と発揮したるものであるとするもしかして憶者の鑑定の自由は一任するのである

而して本講述は於る哲学系統の組織を一の哲学の教義の中に包含する所の四種の疑問に答へる為めに哲学講究の部門と四種に分ち各部門的哲学を各四種研究的方面から研究し各四種研究的方面と各四種検覈的要素に就き検覈し即ち一の哲学の教義に基つき四種の部門的哲学と十六種の研究的方面と六十四種の検覈的要素と本末細目合して八十五種の條款に因て此全宇宙一切万有の実在的原理と此実在的原理の全宇宙一切万有と表現する所の力用と其表現せらるる所の現象の状態と此実在的原理の全宇宙一切万有の生存活動と統紀する所の規範と研究検覈して其研究検覈の過程中に於て従前東西古今の同る起る哲学各系統の原理の由て起る所の理法契機と其互相の関係聯絡と又其

東京榛原製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1087

哲学と神髄論述大意

余は今茲に哲学と神髄論述の本題に入るに当り、

系統的に主観的組織的に各章定理を掲げ講述と付し之と講述をなるに先ちて先つ其研究の目前の在る所と其系統組織の要領とを概括的豫測的に一言して置くの必要あり

考へるのならさやうにするのである

第一章は講述に於る研究の目的を此全宇宙一切万有の実在的原理と帰納的に潜彌的に現象上のら規範上のら研究し検覈して其研究検覈

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1087

の過程の中に於て従前東西古今の間に起りたる
有ゆる哲学系統と絶無に各自
の位置方面と立定の互相の関係聯絡と脈通
の本哲学系統の上にらして之を見れば従前
東西古今の間に起りたる有ゆる哲
学系統の各系統を皆本哲学系統の中の一契機一カ
素一方面一要素たらるべきものと言ふべし
講述
明らかにして以て宇宙の大観と極めて以て宇
宙観人生観宗教観等に於ける千古未決の疑問
を解決し以て哲学全体の真精神真骨髄を発揮せ

東京 棒屋

ん

昨年の異説獨逸哲学者の即ち所謂思辨哲学と称せ
る一派の経験と軽んじ専ら純思辨のみを
以て全宇宙一切万有の実在的原理と研究し
うとしたのと全く万對の側の因果に陥りて
居りたのとの両者共に決して各種の科学人と
なる有ゆる前年代に於ける従来のヘーゲル伊蘭
西のコンドルセの英の実證的哲学と英国の功利のスペンセル
の思弁的哲学とは同じやうなる考を起して
其所説の如くにヘーゲルも餘りに他思辨的コムドルセも餘りに他佐路

的一面のみを偏倚して各他の一方面の能
研究と懈りしる所のものは其不完全失敗を免れず
の存するあり本講述は所謂的思辨的哲学
駢の両方面のみを研究するものにして
其中なるのみならず尚本講述は
らとして今日
るけまとして序ふのみ一言しを
第二に本講述に於る哲学系統組織の要領を
随分豊富なる材料を複雑なるものにして若し詳細なること
述ずるも主方体を析出する所実は
無限無窮の方面要素を包含して居るを今茲

其大体をうと云ふ本講述の上に
ら数ふべくも一の哲学の新義の中に哲学
本来の四種の職掌を包含し其四種の職掌の
らして四種の部門的哲学の起て四種の部門
的哲学を各自に研究的四種方面即ち四種
の部門的哲学と合して都合十六種の研究的
方面と包含し其十六種の研究的方面を各自
に換言的四種要素即ち十六種の研究的方面
と合して都合六十四種の換言的要素と包含
し一の哲学の新義と四種の部門的哲学と十

六種の研究的方面と六十四種の検覈的要素と本書細目合して八十五種の條款を就て研究し検覈しとりのでありて其実業のやうでもあるの其本書細目の聯絡を顧慮しわるとともに今茲に本哲学全系統圖解と掲げて請者の此圖解に引合せて又本講述を復習し此圖解と照し合せるやうにすれば本講述のお便利であると考へるのならばまづ本哲学全系統圖解を見る

∴ 哲学一

そこで本此本哲学全系統圖解は其聯絡を正しく列挙したる所の八十五種の條款に對する一定の道理を本講述に入りて之を講述するのであるが本哲学系統では一と四とを分ち四と十六とを分ち十六と六十四と分ち又二十四と十六に合し十六と四に合し一と四と一に合をすると言ふべきうに終始四分法として又四乗法と云ふ可き方式と以て其研究検覈と進行して居るの其の偶然の存様に為りさ法でもそれ此全く又故に二にさやうなる為に

東京帝國大學

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1087

宇宙一切万有の実在的原理の自己中に具有
する所の力用の発動から起る
のを其五種に分ける所以の道理を本講述に於る
定理と謂ふ事は詳しく之を説く或る一
のものを表定して他のものを遮定し或る一
のものを遮定して他のものを表定し或る一
のものと他のものと俱に表定し或る一
のものと他のものと俱に遮定する所の四種の発
動から起ることの下方のうら哲学の教義の中に
包含せらるる所の哲学の四種の根

第九 四種の部の前哲学的研究的方面

此四種は数的要素に其互相に於る関係
の精神を皆相一貫して其道理を皆相聯絡して
居つて第一方面に於ける所の関係の
の両項の中の一項に表定せらるると同時に
他項の遮定せらるる第二方面とも必られ一項
の遮定せらるると他項の表定せらるとの方面
下に両項俱に表定せらるると共に其互に第四
方面とも必られば両項俱に遮定せらるるとの
一部なると言へば之に於ける

[illegible]一の考へ方は本情性とする事のお保
宜てゝ有る又必要ある有ると考へる最も釈
り易い二の例と挙げて迷と言へと形而上
的方面の検察の第一面なる唯心論でも心と
表定まると同じく物と遊定一の第二面なる
る唯物論でも心と遊定されると同時に物と表
定一第三方面なる二元論でも心と表定される
と同時に物とも表定される第四方面なる不
可思議的一元論でも心と遊定されると同時に
物とも遊定されるとの説合一

到せしめる所の力用の発動と表現と又宗教
的方面検察の第一方面なる無宇宙論でも他
行的なる神と表定されると同時に相待的なる宇
宙と遊定一第二方面なる無神論でも他待的
なる神と遊定されると同時に相待的なる宇宙
と表定一第三方面なる有神論でも他待的な
る神と表定されると同時に相待的なる宇宙と
遊定されると同時に相待的なる宇宙と
ピーの第四要素なる汎神論でも他待的なる
神と遊定されると同時に相待的なる宇宙と

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1087

佛は唯一神を宇宙として宇宙を神とすると
言て神と宇宙とを一致せしむる所
力用の発動と表現せるものであると言ふべく
なるべき其精神を皆相一貫し其理論を皆
一致して居るのである今之を増して五方
面とすると雖も章複となり之を減じて三種の方
面とすると雖も不正となるのである志ずして
ら是等のものを今皆悉く言ふとせのうち秘
訣の可きものでも皆ない本講
講中に説く今は只其要領のなまる所と一言

本講述の各章
ずつ一と説明
すると云ふ事
である

此四種の方面
実は理論
理上必要の結果
として起る
あるべき

東京帝国大学
図書館

して参考の供する為めの
又本講述の各章
所ずつを其説明として定理
即ち各章の始めに掲げた有る所の主旨
の点を全部自らまとめ把握して本哲学系統の大綱を
草案したものである此定理の次に掲げて有る
所の諸説と言ふのは其説明を諸説
ゆえなる所あるを示すと口述して連記せ
たのである元来講演して補うべき
けれども或は魚鳥禽獣の説が
さ此の又定理と言い諸説と言ふのならばそれ十

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1087

七世紀頃より流行したる所のデカルトドモノ
ガリとの義理学的倫理的の方式
のみならず無論のことなれども
又本講述は仏教玄義と言ふ一名となしたる
も本講述の結果が今日から二千餘年前の印度
の祝加年尼仏陀の唱せられたる所の仏教の
固有の思想と自ら相合する所の有るから
宗派の分立して各自の主張する所と
陥し其講述の方法も頗る煩瑣的なる所
東京横浜毎日新聞

其外多くの人の服するところ
うら本講述は仏教の玄義即ち深く隠れたる
真の精神であると言ふことを発揮したるもの
かと言ふに言はゆる其小乗の人と本講述と
新に創設せられたる
一の哲学新系統であると見做されて決
して差支なきも只剽窃的模擬たるに
過ぎず仏教玄義と言ふ一名とかしてまた
まだのあとである

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1087

哲学神髄一家言講述要旨

余は本講述の本題に入る順序として追ふて系統的に定理を立つ所の證明を付して之を講述せるに先さちの豫備的豫測的に其要旨を告白して置くのお便宜でも有り又必要でも有ると考へるから左様にする

本講述の目的は前東西古今の間に起り来る哲学各系統に於る原理の間に起る所の理法契機を帰納し各系統の互相の関係脈絡と貫通し各自の位置方面を立定し今日

第一に此全宇宙一切万百の実在的原理を研究し解釈し此実在的原理に因て

まで東西古今の間に有らゆる哲学
各系統の原理を統一して完全無缺な
る一大系統を為して以て宇宙の大観を極め
以て哲学の真精神真骨髄を発揮し以て宇
宙観人生観宗教観等に於る千古未決の一
大疑問を解決せんとするに在るのみ有る
又本講述る佛教玄義と言ふ一名を付して
のみ本講述に於る研究検覈の結果に今から
二千餘年前に印度の釈迦牟尼佛陀の首唱
せらるゝ所の佛教中の因縁生の哲理と妙

合一致せる所に有るのみならず有るまでなく
ら其研究検覈の方法し其講述従明の順序
し全く是まで有り来りの佛教と全く異
なる者のみならずして本名を以て哲学神髄一
家言と題して一家創設の哲学新系統であ
るこのより其後の富者を講述者自ら之に任し
て決して釈迦牟尼佛陀の聖権なるに依
賴せずと言ふことを明らかにして而して
後別に佛教玄義と言ふ一名を付して従前
印度的、詩的、因明的なる佛教中の深く隠れ

たる玄妙の義蘊と世界的経験的論理的なる研究検覈したる結果の下に有ると言ふ意味とおのメカしたる置れたるの下に有るから本講述と以て一家創設の哲学新系統で有るとするも仏教の玄義と発揮したるもの下に有るとするもソしたる讃者鑑定の自由なる一任せるもの下に有る

而して本講述なる於ける哲学系統の組織なる一の哲学の釈義の中に包含せる所の四種の疑問なる答を為めなる哲学を四種なるから各哲学の中に各四種研究的方面をうら

研究に各四種研究的方面を各四種検覈的要素なる就て検覈したる一の哲学の釈義の部門的哲学中と十六種の研究的方面と六十四種の検覈的要素と本書細目合して八十四種の條款なる因て此全宇宙一切万有の実在的原理この原理をと此実在的原理この全宇宙一切万有と表現せる所の力用と其表現せらるる所の現象の状態と此実在的原理なる全宇宙一切万有の生存活動と統紀なる所の規範と研究なる検覈に具研究

検覈の過程中に於て従前東西古今の間に起つて居る所の哲学各系統に於る原理の因て起る所の理法契機も互相の関係脈絡も其各自の位置方面も自ら明瞭に解釋されて是まで東西古今の間に有つた有らゆる哲学各系統を皆此一大系統の中の一契機一要素たるに過ぎざることを講述説明したのである本講述の緒論本論結論合して二十八章の中に概略ながらも之を講述説明したのである

そこで本講述に於る哲学系統の組織を一と四に分ち四を十六に分ち十六を六十四に分ち又六十四を十六に合し十六を四に合し四を一に合作すると言ふ様に終始四分法と云ふ四等法と云ふ様に四階級但に四つづゝになつて居るのは決して偶然に左様になつて居るのではなく又故意に左様にしたのでもなく全く此全宇宙一切万有の実在的原理が自己中に具有し自己中から表現せる所の力用の四種方面の必然に然らし

めとのべたるとまた本論述ふ
く詳しく説明解釈せるべきのみ有るべし今茲
一二の例證を挙げて之を言へば東西古今
の問題の形而上的問題の根本的立脚地
第一は主観的なる心のことを肯定して客観的なる物と否定せる所の唯心論アイデアリズム
主観的なる心と否定して客観的なる物の
ことを肯定する所の唯物論レアリズム
なる心とも客観的なる物とも倶に肯定せる
所の二元論デュアリズムと第四に主観的なる心とも客

観的なる物とも倶に否定せる所の不可思議アグノスチカル
論的一元論モニズムとの四種の出でたるなり
る形而上的問題でも決して此四種の根本的
立脚地の外に立つことを許さざるのみならず
これを減じて三種とまたは二種とまたは
一種とまたは許さぬ又東西
古今の問題に於ける宗教的問題の根本的立脚
地を第一に他待的なる神（若しくは真如）の
ことを肯定して相待的なる宇宙と否定せる
所の無宇宙論アコスミズムと第二に他待的なる神と否

定して相待的なる宇宙のことを肯定する所の無神論と第三の絶待なる神と相待なる宇宙と倶に否定する所の有神論と第四の絶待なる神と相待なる宇宙と倶に否定し宇宙を神なりと論断する所の汎神論との四種のみ如何なる宗教的問題をも決して此四種の根本的立脚地の外に立つ者なきことを許さぬのみならず決してこれを減じて三種となすべからざるまた之を増して五種となすべからざる所以

東京帝國大學

ぬ斯様なる例證のうち考へて見ると相関互根的なる存在して居る所の甲乙両項を乾く或は甲項のみと肯定して乙項と否定し或は甲項と否定して乙項のみと肯定し或は甲乙両項倶に肯定し或は甲乙両項倶に否定すると言へば四種の確断を此宇宙上に於て心的現象と物的現象と又心的現象と物的現象との関係とを問はず一切の事物一切の事理倫断の根本的契機根本的力素根本的要素普遍的方面を有すると言ふ点

心と物との結合とこの宇宙とのこと

とこの知らるべきの不有るを
而して
本講述に於ける哲学系統の個像を前に言
ふるが如く一の哲学の個像と四種の
と十二種の研究的方面と六十四種の検覈
的要素と互に相関関係して其個像に随ふ初
雑多端なる様を見て
正確なるものの少し突発の様
なるを有るが本講述の本題に入る前に本哲
学全系統図解と掲表して後者の図解を見
て本講述と後て本講述と後て図解を引

き合せるの便利を供せるのこの宜しきを
のられた様に思はる

本哲学全系統図解

是この則本哲学全系統個月の図解で有る之
を一の家屋の建築に比せば一枚の大盤石
の上に一大家屋と建築して其第一層に四
室あるのちに四大食堂に四種教室其
第二層に之と十二室子弟のちに会議執務
の場所に十六種研究的方面其第三層

ものと六十四の寢室なるものとの安眠靜臥の場所（ところ）六十四種模寫的要素（ものたる）なるものである

又本講述の各章では其說明と定理（セオリーム）と證明（プルーフ）との二種のうちの各章の始め掲げてある所の定理と言ふのを除き（合して）（本書の表紙の表面を）立派（自身作品と云さ）しいものであり（て）二十八章位ではページ数も足らぬ位なる短文である此定理の次に掲げてある所の證明と言ふのは其理由と證明とを為めに思ひ切って

しい所を（漸次）口述して書生等に速記させたのである（或る）のから完全な模寫（したもの）になるまでにはなほ幾つかの過程を経なければならぬのである

尚序（前）に一言附加して一言述べておくのは本講述に於ける哲學研究の一方法の事である從前の哲學各系統は純理的なる方法と經驗的なる方法（どちら）との分立して居りて何れの學系統（どちら）でも何方（どちら）か一方に偏して居らぬ（自己矛盾と陥らざる）ばかりか（自己矛盾に陥らざる）その一見の相違の起源（偏）に新しき調和の起源なる先天

具有して居る所の知性が起るのであると言ふのと誤認

的の主観上に備はり有して居ると云ふ後の起

源を知覚から起るとも知識の結合から経験

が起り経験からして認識が起るのである

甲乙両説は生物界

依他起性又は偏計所執性

同位相性は実在界

四成実性

と言ふ唯理論と認識的起源論の相違から由来

して唯物哲学一般の方法と異なる唯理的方法

法と称するものと多くは唯心論に傾き経験

的方法研究方法と称するものは多く唯物論

に傾くと言ふ傾向になる

余の考

東京帝国大学

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1087